

2 計画の全体像

1. 将来への道のり

豊かな生活環境を子どもたちに伝えるため
みんながいっしょになって創り上げる循環型のまち*

市民・市民団体・事業者・
行政がパートナーとなり、
それぞれの役割を果たせ
ば、ゴールは近い！

目標（10年後：H23）

全国トップレベルを維持

1人1日あたりのごみ量は、400グラム
（H12比42%減）資源回収率は50%に。
発生・排出抑制が進み、とくに生ごみは30
%の資源化が進みます。

H22にもう
ひとつの最終処
分場**が使えな
くなる!?

目標（5年後：H18）

ごみ処理に関しては全国トップレベル

1人1日あたりのごみ量は、450グラム
（H12比35%減）資源回収率は44%（H12
比で2倍アップ）に。資源回収システムの
整備により、資源化に拍車がかかります。

H17に民間委
託の最終処分場が
使えなくなる!?

現状（策定時：H12）

1人1日あたりのごみ量は、687グラム、資源回収率は22%

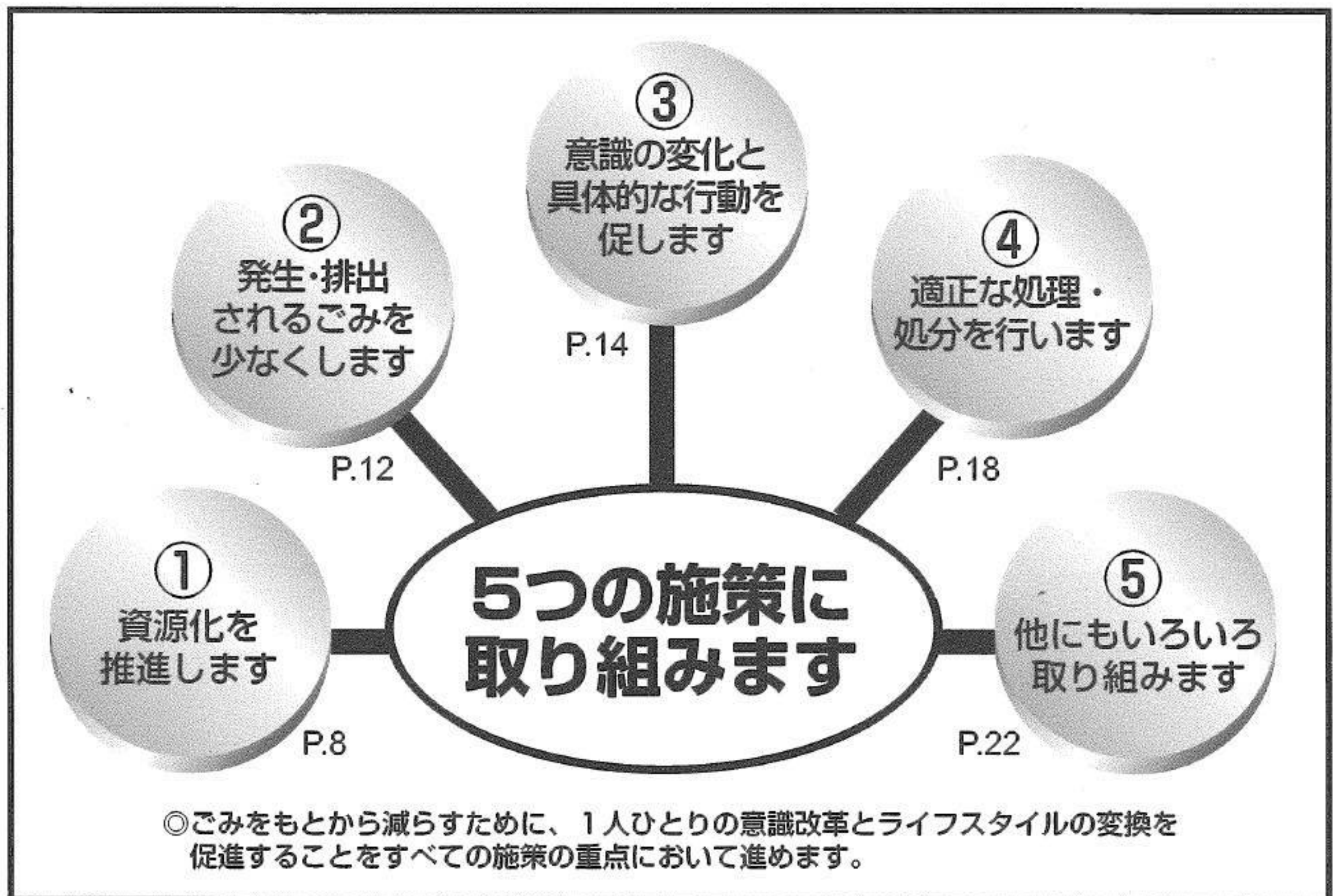
課題…

日進市は最終処分場を民間などに依存しているため、将来使えなくなったときの最終処分場の確保が重要な問題となっています。また、急激な人口・世帯数の増加によりごみの量の大幅なアップが予測され、焼却残さや埋め立てごみの量を減らすことが急務となっています。

*循環型のまち…①ごみの発生を少なくして、②出してしまったごみはできるだけ資源として使い、③どうしても使えないごみはきちんと処理することで、天然にある資源の消費を少なくして環境にできる限り負担をかけないまちのこと

**もうひとつの最終処分場…愛知臨海環境整備センター（アセック）

2. 目標達成のための5つの柱



3. それぞれの役割



事業者
修理やリサイクルがしやすいなど、ごみにならない製造販売を行い、また事業者自ら、ごみの発生・排出抑制と資源化に努めます。

市民
消費行動を見直し、ごみを出さないライフスタイルの変換に努めます。また、出すごみは分別し、資源にまわします。



行政
ごみの発生・排出抑制、資源化のためのしくみを整え、適切な情報提供を行います。また市民、市民団体、事業者との協働・連携に努めます。



市民団体
市民・事業者・行政をつなぎ、施策をサポートします。また自らも主体的な活動を行います。



4者のパートナーシップ(協働・連携)で、目標の達成をめざします！
それぞれでやるのではなく、みんなで協働・連携することで、より大きな成果が上げられます。こうすることで、コスト(税金)の低減にもつながります。